

7月10日（月）、5年1組で国語科の努力点公開授業が行われました。

単元は『町じまん』をすいせんしようです。大野木学区周辺の、お気に入りの場所、人、物などを推薦し、聞き手に納得させることが目的です。そのために、話す順序や話し方を工夫することが学習のめあてです。

児童は事前に、推薦したい事柄について、推薦する理由と併せてメモしておきました。今回は、グループで、メモを基に発表し合い、互いにより納得できる内容に高め合いました。そのために、ワークシートを使いました。話したいことを付箋に書き、ワークシートに貼りました。その後、聞き手に伝わるように、話す順序を考えました。



【授業の様子】

次に、聞き手を納得させるための話し方の次の四つのポイントを確認しました。

- ① 納得できる理由をいろいろな面から考える。
- ② 構成の工夫を考える。
- ③ 結論を先に話す。
- ④ 特に訴えたいところを短くまとめて話す。

そして、グループになり、一人ずつ発表をして、発表についてのアドバイスをし合いました。これを「高め合いタイム」と呼びます。

アドバイスの仕方の例も、ワークシートに載っているので、話し合いが苦手な児童も、アドバイスをすることができました。「今言ったよさは、他の場所にもあるから、他の例も言うといい」と、具体的な話の内容までアドバイスをする児童もいました。「高め合いタイム」では、友達の発表をよりよくしようという姿勢が見受けられました。



【高め合いタイムの様子】

最後に、一人の代表児童が、発表をしました。児童は、大野木小学校のシンボルでもある「メタセコイア」を『町じまん』として紹介しました。以前のシンボルは「クスノキ」で、校章にも使われていることを例にとって推薦しました。タブレット端末を活用し、テレビモニターに校章とメタセコイアを交互に映すことで、大野木小のシンボルであることを強調することができました。



【代表で発表する児童】

高学年になると、ただ自分の思いを話すだけのスピーチではなく、聞き手に訴えかけるスピーチになります。そのため、話す内容だけでなく、話し方も重要となってきます。反対に、聞き手も話し手が伝えたいことを聞き取るためにポイントを押さえながら聞くことが必要となります。今後も、両者に必要な力が育つ手立てを考えていきたいです。